

1923 年関東地震に対する東京都 23 区内 (旧郡部) での 詳細震度分布

鹿島小堀研究室 武村雅之・諸井孝文

Detailed Seismic Intensity Distribution in the 23 Wards of Tokyo
Metropolis from the 1923 Kanto Earthquake

Kobori Research Complex, Kajima Corporation, 6-5-30 Akasaka,
Minato-ku, Tokyo, 107-8502 Japan

Reports of the 1923 Kanto Earthquake by the Geological Survey of Japan include data of number of damaged wooden houses not only on municipalities but also on village sections. We added these data to the previously compiled data, and obtained a detailed seismic intensity map of the area of the 23 wards of Tokyo Metropolis. In the old 15 wards area, which corresponds to the down town of the present 23 wards of Tokyo Metropolis, the detailed seismic intensity map had been already evaluated by Takemura (2002). The results of the present study and Takemura (2002) indicate that areas of seismic intensity of 7 on the JMA scale were located on the ground of accumulated peat, which was under swamps in old days.

§1. はじめに

前報, 前々報 [武村・諸井 (2001, 2002)], において千葉県ならびに埼玉県における 1923 年関東地震の詳細な震度分布を評価した。その際, 市町村毎の建物被害の集計に加え, 地質調査所 (1925a, b) による被害調査報告書にある, 例えば大字毎の細かい被害の記述が大変役に立った。一方, 諸井・武村 (2002) は, 震災予防調査会報告 100 号 [松澤 (1925)] や大正震災志 [内務省社局 (1926a)] のデータを主に用い, 関東全域で木造住家の全潰率から, 市町村毎の震度分布図を作成している。また, 武村 (2002) は旧東京市 15 区内の町丁目毎の詳細震度分布を求めている。その際, 松澤 (1925) のデータの他に, 焼け跡における聞き取り調査結果 [北澤 (1926)] ならびに千葉県, 埼玉県の評価にも用いた地質調査所 (1925a, b) による被害調査報告書も用いている。

地質調査所は, 関東全域で被害の調査をしたにも関わらず, その調査結果の全てを報告書として刊行することができず, 全 6 巻の予定が 2 巻分しか現存していない [武村雅之・諸井孝文 (2001b)]。幸い, 現在の東

京都 23 区内に関しては, 第 1 巻を中心に相当細かい被害調査結果が残されている。本稿では, 諸井・武村 (2002) の結果にこの地質調査所のデータを加えて, 23 区内の地域のうち旧東京市 15 区以外 (旧郡部) の地域についてデータの整理を行うとともに, 詳細な震度分布を求めることにする。

§2. データ

現在の東京都 23 区は, 当時は, 旧東京市 15 区の他に, 荏原郡, 豊多摩郡, 北豊島郡, 南足立郡, 南葛飾郡の 5 つの郡と, 北多摩郡の千歳村と砧村の 2 村よりなっていた。面積は旧東京市 15 区の約 8 倍である。図 1 に東京府の郡市の配置と現東京都 23 区の範囲を示す。

表 1 に地質調査所 (1925a, b) の報告で東京に関する部分の内容を示す。最下段の報告は第 2 巻にあるが, 他は第 1 巻にあり, 千葉県や埼玉県の場合 [武村・諸井 (2001, 2002)] と異なり, 調査地域が行政区に関してかなり入り組んでおり, 調査地が重複する場合もあるが, それらの結果を整理して, 行政区毎の資料として付録のデータを作成した。

表 1 地質調査所報告に掲載されている東京に関する報文と対象地域

報告書題名	ページ	地域	区郡(東京府)*
東京北東部地震調査報文	77-98	隅田川沿岸北部	下谷区、浅草区、本所区(以上東京市)、北豊島郡、南足立郡、南葛飾郡
東京南東部地震調査報文	99-110	隅田川沿岸南部 一部	京橋区、日本橋区、神田区、深川区、芝区、麹町区、
東京西部地震調査報文	111-140	山の手およびその近郊	下谷区、本郷区(以上東京市)、南葛飾郡、本郷区、小石川区、牛込区、四谷区、麹町区、赤坂区、麻布区、芝区(以上東京市)、北豊島郡、豊多摩郡、荏原郡
東京最南部地震調査報文	141-146	山の手南部	芝区(東京市)、荏原郡
東京府北部地震調査報文	147-168	荒川、入間川、多摩川に囲まれた地域	豊多摩郡、北多摩郡、西多摩郡、以下埼玉県、北足立郡、入間郡
東京府東部地震調査報文	169-203	多摩川と中央線に挟まれた地域	荏原郡、豊多摩郡、北多摩郡
千葉県上総下総調査報文	55-185(2号)	千葉県、東京東部	南葛飾郡、千葉県全域と安房郡の一部

*東京府の西多摩郡と千歳村、砧村を除く北多摩郡は、現在の東京都23区に含まれていない。



図 1 現東京都 23 区内の旧東京市および郡の位置

一方、先に述べたように諸井・武村(2002)は、関東全域において市町村単位で住家全潰率から震度を評価しており、その際に示された全潰、半潰の住家の棟数ならびに戸数も同時に各町村の最初の行に太線で囲んで示した。

付録のデータについてさらに説明すると、まず左から郡名、町村名、次が原則として大字名、さらに細かい地域名や地点名の欄が続く。そのあとに地質調査所報告に記載されている被災地の地盤条件や地盤の液状化に関する記述を示す。

全戸数は太線で囲んだ諸井・武村(2002)による欄は大正九年の第 1 回国勢調査の結果である。地質調査所の報告には全戸数が書かれていない場合も多い。次が全潰で、全潰棟数 N_b と全潰戸数 N_h を区別して書いてい

る。地質調査所の報告にはどちらか一方または両方が書かれている場合がある。両方が書かれている場合を見ると一般に全潰戸数の方が全潰棟数に比べて多い。

この原因として、武村・諸井(2001c)は、都市部では集合住宅の存在、地方では全潰戸数の定義が住家が全潰した世帯だけでなく非住家のみが全潰した世帯が含まれていることを指摘している。ここで対象としている地域は現在の東京都 23 区内とはいえず、当時は郡部に属しており、諸井・武村(2002)と同様、後者の原因によるものと考えたことにした。また全潰率を計算するために必要な全住家棟数も集合住宅の影響が無いとして一世帯一住家を仮定し、全住家棟数 = 全戸数 N と考えた。ここでの全潰率 Y_b は住家の棟数に対するものである。[諸井・武村(2002)]。

従って全潰率 Y_b は全潰棟数 N_b が分かっている場合は $Y_b = N_b / N$ で、全潰戸数 N_h しか分からない場合は戸数全潰率 $Y_s = N_h / N$ をまず求め、武村・諸井(2001c)による以下の関係式によって Y_s から Y_b を求めた。

$$\log Y_b = 1.1 \log Y_s \quad (1)$$

半潰についても同様に棟数欄と戸数欄を設けた。半潰数欄に「倒」と書かれている場合は、対応する全潰数欄の数字が倒潰数を意味することを示している。地質調査所報告での倒潰数は全潰数と半潰数の和を意味している[武村・諸井(2001a)]。この他、参考のために、家屋や灯籠、墓石などの転倒方向ならびに焼失した住家数なども示した。これらのデータをもとにした

震度の評価法は次節で説明する。

付表で評価した震度は、例えば震度 6 弱は 6-、震度 6 強は 6+と書かれている。さらに被害に関するコメントも付表に加えた。この中には内務省社会局（1926a）の大正震災志による記述も震度評価に有効と考えられるものについては*印を付して加えた。被害に関するこれらのコメントも次節で述べるように震度評価に反映する。

§3. 震度評価

震度の評価には住家全潰率を基本にした。全潰率と震度の関係は前報、前々報[武村・諸井(2001,2002)]と同様以下の通りである。

震度 7：30%以上、震度 6 強：10%以上 30%未満、
震度 6 弱：1%以上 10%未満、震度 5 強：0.1%以上 1%未満、震度 5 弱：0.1%未満。

なお気象庁による震度分布を見れば、関東全域は震度 5 以上の領域に含まれており、その中でも東京地方は震

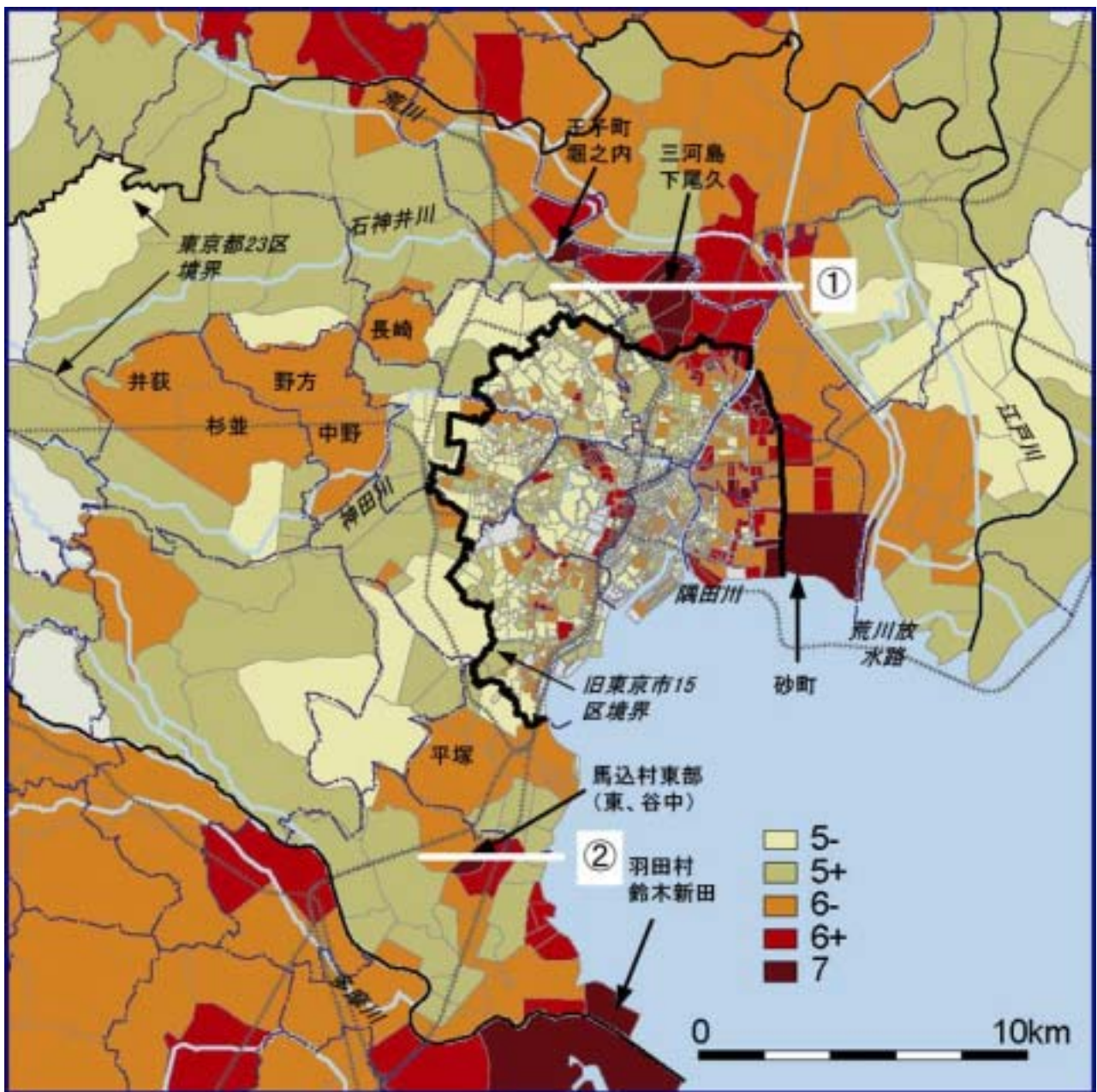


図2 現東京都 23 区の震度分布。太線の内側は旧東京市 15 区，それ以外が郡部。震度 7 と評価された地域の地名も示す。 の白い線は図 3 に地下構造の断面を示す測線。図には現在の JR 線も示す。図の中央部で紡錘形を示す線が JR 山手線である。

源に比較的近いことから、全ての場合に震度 5 弱以上を仮定した。付表にあるように、被害に関するコメント中には、倒潰率 h を示すものもあり、前報、前々報 [武村・諸井 (2001, 2002)] と同様に、以下の式で全潰率 Y に直し、その旨備考覧に記載した上で、全潰率覧に掲載した。

$$Y = -1.61 + 0.46h + 0.0051h^2 \quad (2)$$

諸井・武村(2002)による町村毎の震度とその下に示す地質調査所のデータから評価した結果は多くの場合一致するが、例えば荏原郡平塚村(現、品川区平塚、中延、旗の台、荏原など)や豊多摩郡杉並町(現、杉並区高円寺、阿佐ヶ谷、天沼など)、さらには北豊島郡尾久町(現、荒川区東尾久、西尾久、町屋など)などでは地質調査所のデータを用いた方が震度が小さくなる傾向がある。そのような場合、全戸数をみると地質調査所のデータの方がはるかに多い値を示していることが分かる。諸井・武村(2002)が用いた国勢調査の値は大正 9 年のものであり、地震発生時の大正 12 年まで約 3 年間経過し、その間東京近郊への人口の集中が進んでいたとは言え、

2 倍ないしそれ以上も戸数が増えていることは不自然に思われる。原因はよく分からないがそのような場合には、誤った戸数の記載である可能性がある旨、備考覧に付記した。

以上の問題や地質調査所の報告には、全戸数の表示が一部の町村にないことから、町村毎の震度については諸井・武村(2002)の評価結果を用いることにした。

その上で大字単位で全潰率が計算できる場合はその値から直接震度を評価するが、多くの場合は全潰率が計算できないため、被害の集計値や被害に関するコメントなどを参考に町村毎の評価を平均として相対的に震度を上げ下げして大字毎の震度とした。判定の根拠が分かりにくい場合は備考覧に根拠を記載した。また墓石や灯籠など転倒率の記載がある場合は前報、前々報 [武村・諸井 (2001, 2002)] と同じ基準で震度に対応させ、震度評価の参考にした。

また地図に大字毎の震度を表示する場合、大字境界がはっきりしない場合や多くの飛び地があるなどの場合があり、厳密な意味で境界を表示できていない。このため、地図上に書かれた大字名の位置を基準に町村内を大まかに区切るようにして境界とした。中には東

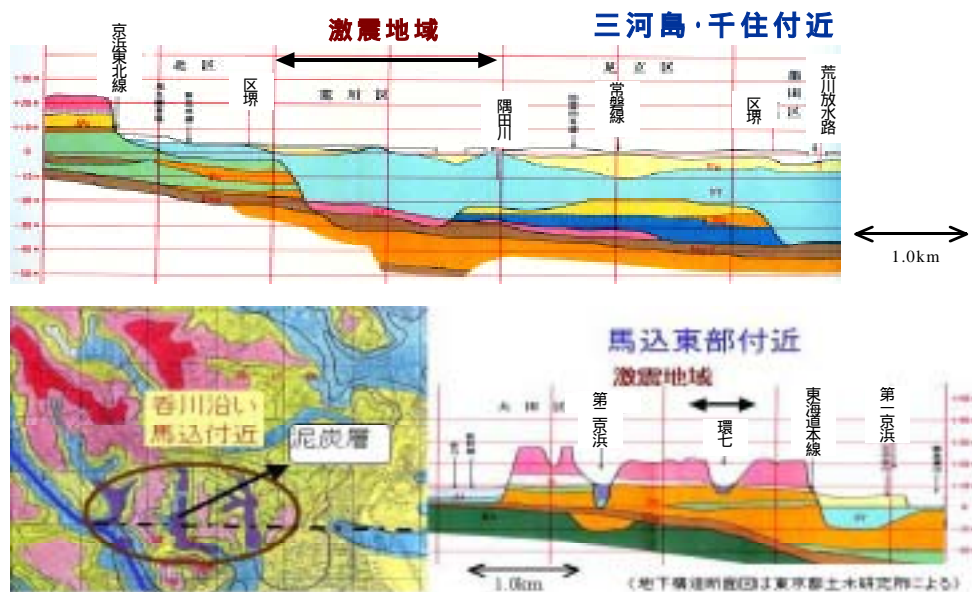


図3 地下構造の東西断面図 三河島・千住付近、馬込東部付近。色が濃く見える部分が洪積層，薄く見える部分が沖積層でその内 Y_u, Y_l は有楽町層， Na は七号地層。馬込東部では幾筋かの谷があり、そこに泥炭層が見られる。震度 7 と評価された地域を激震域として矢印で示す。
[東京都土木研究所地象部地質研究所 (1969a) に加筆]

部，西部などの表現で表した場所もある．次節で述べるような評価結果の検討の範囲ではそれでも大きな支障はないものとする．

§4. 評価結果

図2に，震度評価をした結果を示す．太線で囲まれた地域は旧東京市15区の範囲であり，この地域における結果の詳細は武村(2002)に詳しく書かれているので，そちらに譲り，ここでは東京23区内のうち当時の郡部について主な特徴を述べる．

図で震度7と評価された地域は，王子町堀之内(現，北区堀船町一丁目)三河島町(現，荒川区荒川，町屋)および尾久町下尾久(現，荒川区東尾久，町屋)，砂町(現，江東区北砂，南砂，東砂など)馬込村東部入新井村境界付近(東，谷中)(現，大田区南馬込，山王の一部)，羽田村鈴木新田(現，大田区羽田空港一二丁目)などである．

王子町堀之内や三河島町，尾久町下尾久は隅田川の南西部に沿う地域で，昭和6年，東京市に編入される際の調査報告書[東京市臨時市域拡張部(1931a)]によれば，三河島町付近の沖積層は腐植質を多く含み，こ

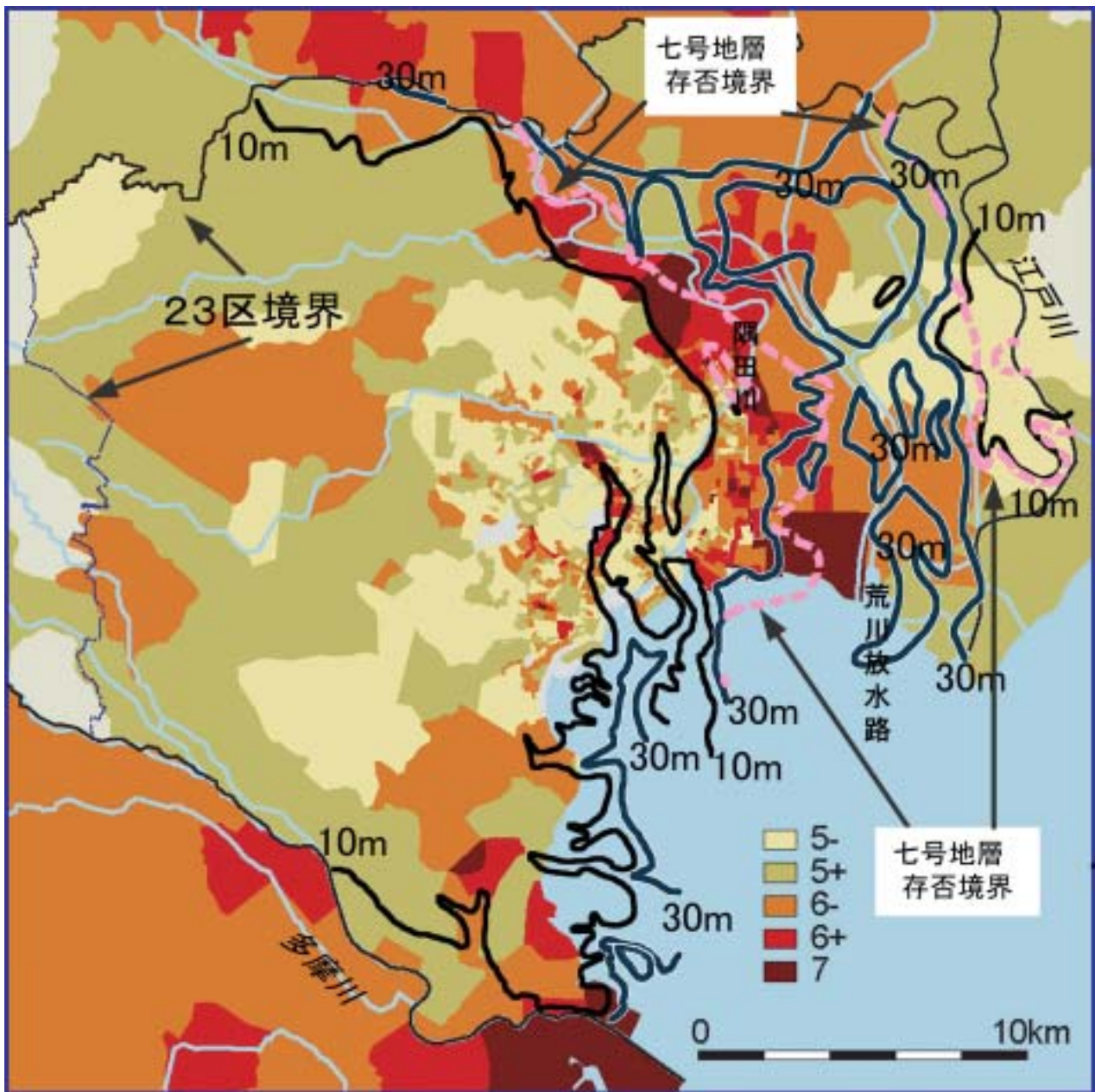


図4 現東京23区内の震度分布と沖積層厚の関係．コンターは東京都土木研究所地象部地質研究所(1969a)による有楽町層の厚さ(10mおよび30m)を示す．薄い点線で挟まれた地域は有楽町層の下に七号地層が存在する地域を示し，点線は存否の境界である．

これは江戸時代以前にこの地域に多くの沼沢があったためであると推定されている。このことは武村(2002)が論文中に示した1460年頃の江戸の地形図とも対応する。また、昭和7年に刊行された三河島町郷土史〔三河島町郷土史刊行会(1932)〕には、1855年(安政2年)のいわゆる安政の江戸地震の際にも三河島村の戸数200余戸の内、全半潰百余戸の大きな被害が出たことが述べられており、この地域が大正関東地震の際だけでなく、昔から地震によって大きな被害を受ける地域であることを示している。

図3は図2の測線に沿った地下構造の断面図である〔東京都土木研究所地象部地質研究所(1969a)〕。図2に示す現在の山手線や京浜東北線の直ぐ西側は台地で高くなり、そこから東に向かって現在の北区と荒川区の境界付近までは沖積層が薄い、それより東側で沖積層が急激に厚くなっている。この地域が三河島町の激震域(震度7の領域)に対応し、隅田川を渡っても沖積層は厚く千住町(現、足立区千住)にかけて震度が比較的高い地域が続いている。

砂町は、東京市役所(1936)の環境調査によれば、地盤は沖積層と埋め立て地であり、低湿で排水の便が悪く沼地や溜水地が各所に点在している。下水道の備えもなく不潔箇所が極めて多く、伝染病の発生率は警視庁の管内で一番と指摘されている。地盤条件が良くない上に住環境も非常に悪かったことを伺わせる記述である。

馬込村東部の入新井村との境界付近の谷中通りに沿う東、谷中〔東京市臨時市域拡張部(1931b)〕は現在の大田区南馬込や山王付近にあたり、環状7号線に沿う谷底低地である。現在でも付近には弁天池とよばれる小さな沼も残っている。図3の下の図は付近の地質図と地下構造の東西断面図である(一点鎖線の測線は、図2にもとして示す)。谷に沿って泥炭層が見つかり、この地域がその昔低湿地であったことを示唆している。泥炭層はさらに西側の第2京浜国道の谷、さらにはその西側の呑川沿いの洗足池付近でも見つかり、それらの地域で住家全潰率が高かったという特別な記述は見つかっていない。この地域は図3からも分かるように複雑に谷が入り組んでいる地域であり、被害の調査が充分でなかったか、住家あまり存在しなかったか、そのあたりの真相はよく分からない。

現在の大田区では、この他に馬込村の隣の入新井村、

大森町、羽田町などでも被害が多く震度が高い地域がある〔東京都大田区役所(1951)〕。中でも羽田町は家屋の全潰が非常に多く、特に多摩川河口の鈴木新田における被害が大きい。鈴木新田は当時の地図を見ると、多くの池が点在し、鴨の猟場になっていたようである〔東京市臨時市域拡張部(1931c)〕。

以上のように震度7と判定された地域は、沖積地盤である上に以前に池や沼などの湿地であった場所であり、多くの場合腐植土(泥炭層)に覆われているという特徴がある。このような特徴は武村(2002)が東京市15区内で震度7となったと指摘した地域の特徴とよく一致する。

図2で東京23区の西部は一般に震度が低いが、その中で神田川と石神井川に挟まれた地域の震度が6弱とやや高い。その内杉並町は、地質調査所の報告による全戸数が大正9年の国勢調査に比べ2倍程度も高く不自然であると先に指摘したが、長崎村(現、豊島区長崎南町、東町、仲町など)、井荻村(現、杉並区荻窪、善福寺、下井草など)野方村(現、中野区野方、大和町、新井など)、中野町(現、中野区中野、中央、本町など)でも、それほどではないが地質調査所の報告による全戸数が多い。それらの値を用いると野方村以外は震度が5強となり、周りの町村との震度の差が無くなり、先に指摘した傾向は見えなくなる。この地域の震度がまわりに比べて本当に高いかどうかは今後の検討課題である。

§5 考察

再び図2を見ると、東京市15区のうち隅田川の東の本所区、深川区を含め、南部は隅田川と現荒川放水路の間、北部は荒川・隅田川から南西部の台地の縁(JR



図5 砂町における木造住家の全潰被害
〔内務省社会局(1926b)による〕

山手線にほぼ対応)までの間に、6強以上の高い震度の領域が帯状につながっていることが分かる。

これらの高震度域と沖積層の厚さとの関係を見るために、図4で震度分布に、沖積層の厚さを重ねた図を作成した。ここでの厚さは有楽町層の厚さに対応し10mと30mのコンターを示す。コンターは東京都土木技術研究所地象部地質研究所(1969a,b)の結果を基にした。また点線で挟まれた地域では有楽町層の下にさらに七号地層と呼ばれる沖積層が20-30m程度あり、結果としてコンターの値よりさらに沖積層が厚い。つまり、沖積層の厚さは荒川放水路付近を中心として30m-60m程度と非常に厚くなっている[東京都土木研究所地象部地質研究所(1969b)]。

武村・諸井(2002)は沖積層厚と震度との関係を埼玉県東部の中川低地でも検討している。それによれば、中川低地の中央部では沖積層の厚さが最も厚く30-50mに達するが、震度が大きく6強以上となる地域は、中央部より西側の大宮台地側にずれた地域でやや沖積層が薄いと指摘されている。

このような傾向は今回対象とした東京低地においても見られ、図4を見ると、沖積層が非常に厚いと推定される七号層が存在する点線の内側より、西側の沖積層厚が10-30mと推定される地域で震度が高くなっていることが分かる。図からわかるように、荒川放水路の東側では江戸川に向けて沖積層厚が30m以上の地域が続くが、江戸川の少し手前で沖積層厚が急激に薄くなり、結果として、西側の隅田川沿いに比べて沖積層厚が10-30mの地域が狭いことが分かる。このことが、震度の高い地域が認められない理由かもしれない。

但し、荒川放水路河口の砂町は、西部の一部を除き沖積層厚が30m以上の地域に対応するが、全潰率が30%以上で震度7と判定されている。図5は大正震災写真帳[内務省社会局(1926b)]にある砂町の被害の様子である。多くの木造住家が全潰し、確かに大きな被害が出ている様子がよく分かる。ただし、砂町全体に大きな被害が広がっていたのか、それとも部分的かは直後の火災の影響もあって良く分からない。また先に述べたように、砂町は東京の中でも住環境が最悪に近い場所であり、立っていた住家の質がそれほど良いとも考えにくい。このような被害を受ける側の問題も考えられるが、この点についても明確な資料は見つからなかった。

沖積地盤上で震度が高くなる原因の一つとして住家

の全潰が、強い震動によってもたらされたものではなく、地盤の液状化等による不同沈下により引き起こされ、住家全潰率をもとに震度を推定した場合、みかけ上震度を大きめに評価するのではないかと懸念する向きもある。

この点については、埼玉県の場合について武村・諸井(2002)が検討しているように、地盤の液状化などによる軟弱地盤における不同沈下は半潰家屋数を増やす効果はあるが、全潰家屋数を増やす効果は少なく、全潰率より評価された震度の高い地域では、それ相当の強い揺れがあったと理解する方が良いと思われる。

若松(1991)のまとめた日本の地盤液状化履歴図でも本地域における関東地震の際の液状化発生地点は、隅田川から江戸川にいたる広い範囲に点在し、特に震度の高い地域と大きく相関しているようには見えない。

§6 まとめ

東京都23区のうち、旧東京市を除く当時の郡部について諸井・武村(2002)の町村毎の震度の結果に地質調査所の被害調査報告書(1925a,b)の情報を加えて詳細な震度分布の検討を行った。その結果によれば、震度6強以上の強い地震動に襲われた地域は沖積層が10-30m程度のところであり、それより沖積層が厚くなると、逆に震度が小さくなる傾向が見える。また震度7に達するような特に震度の大きい地域は、以前に沼や池などのあった湿潤な低地で、泥炭層や腐植土が堆積している場所であることが分かった。このような傾向は東京市15区[武村(2002)]や埼玉県東部の中川低地[武村・諸井(2002)]における結果と同じ傾向である。

文献

- 地質調査所, 1925a, 関東地震調査報告第一, 地質調査所特別報告, 1, 204pp.
- 地質調査所, 1925b, 関東地震調査報告第二, 地質調査所特別報告, 2, 185pp.
- 北澤五郎, 1926, 木造被害調査報告, 震災予防調査会報告, 100 丙上, 1-53.
- 松澤武雄, 1925, 木造建築物に依る震害分布調査報告, 震災予防調査会報告, 100 甲, 163-260.
- 三河島町郷土史刊行会, 1932, 三河町郷土史.
- 諸井孝文・武村雅之, 2002, 関東地震(1923年9月1日)による木造住家被害データの整理と震度分布

の推定 ,日本地震工学会論文報告集 ,3 , 35-71.

(http://www.jaee.gr.jp/index_j.html)

内務省社会局 ,1926a ,大正震災志 (上) ,1236pp.

内務省社会局 ,1926b ,大正震災志写真帳.

武村雅之 ,2002 , 1923 年関東地震による東京都中心部 (旧 15 区内)の詳細震度分布と表層地盤構造 ,日本地震工学会論文報告集 (投稿中) .

武村雅之・諸井孝文 ,2001a ,1923 年関東地震に対する千葉県内での詳細震度分布 ,歴史地震 ,16 ,123-145.

武村雅之・諸井孝文 ,2001b ,1923 年関東地震の地域被害資料総覧 ,地震 2 ,53 ,285-302.

武村雅之・諸井孝文 ,2001c ,1923 年関東地震による木造建物被害数が混乱する原因 ,日本建築学会構造系論文報告集 ,543 ,97-103.

武村雅之・諸井孝文 ,2002 ,1923 年関東地震に対する埼玉県内での詳細震度分布 ,歴史地震 ,17 ,90-105

東京市役所 ,1936 ,砂町市民館を中心とする環境調査 .

東京市臨時市域拡張部 ,1931a ,三河島町現状調査:(北豊島郡各町村現状調査) .

東京市臨時市域拡張部 ,1931b ,馬込村現状調査:(荏原郡各町村現状調査) .

東京市臨時市域拡張部 ,1931c ,羽田町現状調査:(荏原郡各町村現状調査) .

東京都土木研究所地象部地質研究所 ,1969a ,東京都地盤地質図 23 区内.

東京都土木研究所地象部地質研究所 ,1969b ,東京 23 区内の地下地質と地盤の区別について ,都土木研究所年報 ,51-62 .

東京都大田区役所 ,1951 ,大田区史 .

若松加寿江 ,1991 ,日本の地盤液化履歴図 ,東海大学出版会 ,341pp.

付録 東京都 23 区内、旧東京市意外の地域の震度評価に関するデータ・詳細は本文参照 (1/11)

郡	町村	集落(大字)	地点名	被災地の地盤条件および液状化	全戸数	全潰数(棟数)	全潰戸数(倒潰)	全潰率(%)	転倒方向	震度(町村別)	震度(大字別)	半潰数(棟数)	半潰戸数	焼失数	被害や家屋の状況に関するコメント(*大正震災志)	備考
荏原郡 品川町					8979	58	92	0.65		5+		166	239			
		品川町			11157		89	0.49	SN、NW-SE(灯籠)	5+			238	1	煉瓦塼破損6カ所、死者5	
		南品川宿					49				6-		103			
			海晏寺						SN(灯籠)						灯籠14基(最大高さ4m)9-10割転倒	
			東京市発電所大龍寺												煉瓦造発電所倒潰、死者5 本堂鐘楼倒潰	
		歩行新宿		埋立地(堤に平行に2.3條の亀裂)			0				5+		12			
		北品川宿		洪積層の砂礫露頭			23				6-		57			
			北馬場53-千人塚						SN(千人塚)						千人塚(高さ2.65m)の榎石(1x0.6m)転倒	
			白煉瓦製造所												煉瓦煙突二基(20.18m)上部破損、亀裂生ず	
		二日五丁目					16				6-		59			
		南品川					1				5+		5		防波堤石垣一部崩潰(最大長さ40m)	
		狹師町					0				5-		0			
		南品川利田新田														
大森町					3733	228	294	6.11		6-		672	785			
		大森町		海岸埋立地に亀裂	4530		264	4.39	SE-NW(建物)	6-			731	2(埋没)	埋立地の堤防石垣は破損箇所多し、煉瓦造り建物は殆ど破潰、死者20	
			日本特殊鋼	海底砂泥による埋立地(亀裂多数、泥水噴出)											敷地0.4m低下、砂岩堤防破潰(最大80m)、煉瓦煙突に亀裂	
		南原					43				6+		191		被害が多い地域	
		山谷					80				6+		180		被害が多い地域	
		川端					49				6+		29		被害が多い地域	
		濱端					46				6+		226		被害が多い地域	
			貴舟神社						SE(石塼)、NorN15W(石灯籠)						石塼(長さ64m)、石灯籠4基倒潰	
			東京瓦斯	埋立地地盤軟弱											敷地一部0.35m低下、煉瓦煙突亀裂	
		その他					46									
		森崎・前浦									6+				*大森町森崎より羽田町の東部にかけて殆ど全滅	被害記述よりその他の全潰46は殆ど森崎、前浦と判断
			大森八幡6477番地	埋立地											堤防所々破損	
		森崎・前浦以外									5+					
羽田町					2758	285	350	10.33		6+		1778	1849	1		
		羽田町			2705		630	20.13	N10-40W(家屋)	6+			956		京濱電車鉄橋橋台低下大破、地震当時は潮位平常より0.5-0.7m高い、死者20	
		鈴木新田		沖積平地地盤軟弱							7				被害が多い地域、穴守稲荷神社北方堤防破潰(80m)、満潮時には浸水、全体に渡り0.2-0.3m低下	穴守の全潰率より震度7と判断
			穴守	沖積・埋立で軟弱				50.00							郡中被害最も甚だし、倒潰6-7割の所有り、平屋・二階瓦葺き年齢若く構造粗悪ならず	倒潰65%として全潰50%と推定
			穴守神社												穴守神社近傍、穴守電車終点付近に亀裂多数	
			稲荷橋南方												堤に沿い地盤に亀裂	
		羽田狹師町		沖積平地地盤軟弱(亀裂)							6+				被害が多い地域、多摩川沿岸0.2-0.3m低下	
			大師の渡以西	沖積平地地盤軟弱(亀裂多数で泥水噴出)											多摩川沿岸0.2-0.3m低下	
		その他									6-					
大井町					8193	9	17	0.11		5+		28	47			
		大井町		海岸付近は埋立			18	24					58	11	死者18 海岸付近埋立地で亀裂	
			碓藻土(株)千代田鑄工(株)												煉瓦造り工場一部建物全潰	
			東海電機(株)「オルガン」工場												煉瓦造り工場一部建物全潰、煉瓦壁転倒	
			真崎市川鉛筆工場												煉瓦造り工場一部建物全潰(倉庫2棟)	
			日本モスリン工場												煉瓦造り工場一部建物全潰	

付録 (2/11)

郡	町村	集落(大字)	地点名	被災地の地盤条件および液状化	全戸数	全潰数(棟数)	全潰戸数(倒潰)	全潰率(%)	転倒方向	震度(町村別)	震度(大字別)	半潰数(棟数)	半潰戸数	焼失数	被害や家屋の状況に関するコメント(*大正震災志)	備考
			東京毛織(株)						N30W(煙突)						煉瓦造り工場一部建物全潰、煉瓦壁転倒煉瓦壁転倒、鉄筋煙突上部挫折	
			庚塚								5+					
			瀧王子			3									木造建物全潰地点:4642,4563,4330番地	
			倉田								5+					
			倉田			1									木造建物全潰地点:3329番地	
			鐘ヶ淵			1									木造建物全潰地点:3529番地	
			森下			2									木造建物全潰地点:620,565番地	
			元芝								5+					
			立会			2									木造建物全潰地点:620,565番地	
			関ヶ原	上部はローム、下に砂礫層(洪積層)で		2						3			亀裂2カ所、土地崩潰長さ40m落差6m、木造建物全潰地点:1243,1235番地	
			濱川								5+					
			(北)	上部はローム、下に砂礫層(洪積層)で		2									亀裂、木造建物全潰:1194(7戸建物破潰),1193番地	
			濱川車輛付属品工場												煉瓦造煙突上部挫折、中央部に亀裂	
			(南)			2									木造建物全潰:1887,1755番地	
			その他			3					5+					
大崎町					7982	61	95	0.76		5+		80	122	27		
	大崎町				8232	66	120	0.80	NSorNW-SE(燈籠石碑)、NWorSW(家屋)	5+		84	146	52	住家はおおむね木造平屋及び二階建ての瓦葺きで、構造必ずしも強固ならず、製造工場は木骨煉瓦で多くは外壁に亀裂、煉瓦破損7カ所	
			笹ヶ谷	水田、沼沢地をロームで埋立、笹ヶ谷電気試験所構内では10m下底に泥炭あり											地盤軟弱で亀裂を生ず	
			谷山	目黒川流域の沖積低地軟弱粘土							6-				被害最も甚だしい	
			日東電気(株)(谷山123)						NW(煙突)						煉瓦煙突(23m)下部より2/3挫折倒潰	
			谷山小学校												煉瓦塙(長さ50m)倒潰	
			谷山橋付近	目黒川流域沖積盛り土											被害最も甚だしい、河岸に平行に亀裂	
			大崎橋付近												目黒川流域河岸に平行に亀裂	
			桐ヶ谷	目黒川流域の沖積低地軟弱粘土							6-				被害最も甚だしい	
			谷戸窪	湿潤なる沼地存在											建物被害甚だしい	
			居木橋								6-					
			居木橋南東部	目黒川流域の沖積低地軟弱粘土											被害最も甚だしい	
			大崎駅付近	目黒川流域の沖積低地軟弱粘土											被害最も甚だしい	
			白銀猿町	洪積台地上							5-					
			上大崎								5+					
			最上寺						SN(墓石)						石碑(最大高さ2.1m)総数73基中63基転倒(5/6転倒)	石碑転倒80%を墓石転倒40%と見なす
			衛生材料廠												建物26棟全焼、付近住宅に延焼	
			下大崎								5-					
入新井町					4120	65	95	1.58		6-		94	133			
	入新井町			海岸埋立地は海底砂泥による	4136	88	122	2.13		6-		27	31		非住宅28全潰、2半潰、塙の倒潰3カ所、死者9	
			新井宿(美南見区)	沖積田畑に盛り土で地盤軟弱	1600	64	79	4.00	N10-40W(家屋)		6+		20		家屋は大正8年以降の新築が倒潰、平屋・二階瓦葺き年齢若く構造粗悪ならず、郡中被害最も甚だし、倒潰6-7割の所有り	倒潰65%とすれば全潰50%に対応するため、左全潰率からの震度を1ランク上げる。
			元八景園	大森駅(省線)西方					NW(石垣塙)						花崗岩石垣崩潰25m、煉瓦塙倒潰24m	

付録 (4/11)

郡	町村	集落(大字)	地点名	被災地の地盤条件および液状化	全戸数	全潰数(棟数)	全潰戸数(倒潰)	全潰率(%)	転倒方向	震度(町村別)	震度(大字別)	半潰数(棟数)	半潰戸数	焼失数	被害や家屋の状況に関するコメント(*大正震災志)	備考
池上村					1044	16	23	1.53		6-		110	135			
					1300	2	8	0.15		5+		19	24	0	亀裂は、呑川上流東京電灯変電所の北西左岸に4條長さ35m、被害の甚だし1所は何れも沖積地で地盤軟弱。全潰棟数6半潰棟数23(非住家込み)、破損:住宅500棟、非住宅360棟、死者1	
			東京電灯変電所												煉瓦造り建物および住宅3棟7戸倒潰	
			下池上(以下本門寺周辺)							6-					本門寺被害は以下の通り	
			本妙院	下池上78番地											本堂倒潰	
			安壽院	下池上					W(門)						門倒潰	
			藏定院	下池上104番地					N(庫裡)						庫裡倒潰	
			西ノ院	下池上105番地					N(寺院傾斜)						半潰	
			大坊	下池上105番地					S30E(本道傾斜)						本堂傾斜	
			寶相寺	下池上107番地					S20E(山門傾斜)						山門倒潰	
			中道院	下池上83番地											倒潰	
			本門寺						N(煉瓦塀、WE(石塀)、N5(石塔)、N70E(銅像))						煉瓦塀(長さ8m)、石塀(7.15m)倒潰、石灯籠、石塔57基中55転倒、星壳銅像(高さ4.2m、大正11年建設)転倒	
			上池上その他							5+						
馬込村					457	63	75	13.79		6+		27	35			
							107						20	0	死者1	
			塚越						ENE(崖)						僅かに崖崩潰(10m)	
			東部							7						谷中、東の全潰率より震度7
			東	水田の盛り土地、地盤軟弱											全潰7.5割に達する	
			谷中	水田の盛り土地、地盤軟弱											郡中被害最も甚だし全潰7.5割に達する。平屋・二階瓦葺き年齢若く構造粗悪なら	
			役場前八幡神社						N20-45W(石塀)						石塀崩潰	
			その他							6-						
平塚村					1782	25	37	1.40		6-		0	1			
				洪積台地上が大部分	5800	22		0.38		5+		8		0	被害少、非住家全潰15棟、半潰14棟、石塔倒潰8割、死者2名	全戸数が誤っている可能性あり
目黒村					3639	2	4	0.05		5-		7	13			
			目黒町	目黒川流域は沖積			4									
			上目黒							5-						
			中目黒、下目黒	湿潤なる蘆原が残存する所あり						5+						
			長泉寺(734番地)						S20E(本堂)						本堂(木造平屋築160年)全潰	
			臨時室素研究所	水田上盛り土上					S(煙突)						煉瓦造り二階大破、鉄筋コンクリート煙突(高さ90尺)下より60尺で挫折転倒	
碑衾村					691	0		0.00		5-			0			
						2							10		非住家全潰33棟、半潰24棟	
駒澤町					1204	0	1	0.00		5-			4	7		
						1							7		死者2名(全潰・半潰は住・非の区別不明)	
世田ヶ谷町					2424	10	17	0.41		5+		10	16			
						6	6								非住家全潰12棟、住・非半潰62棟、橋2破損	
玉川村					1321	4	7	0.30		5+		7	12			
				玉川上水		7						15			亀裂の為電柱2本倒潰(全潰・半潰は住・非の区別不明)	
															亀裂は岸に6カ所	
松澤村					365	1	1	0.27		5+		2	3			
				道路破損3カ所		0							0		非住家全潰4棟、半潰2棟	

付録 (5/11)

郡	町村	集落(大字)	地点名	被災地の地盤条件および液状化	全戸数	全潰数(棟数)	全潰戸数(倒潰)	全潰率(%)	転倒方向	震度(町村別)	震度(大字別)	半潰数(棟数)	半潰戸数	焼失数	被害や家屋の状況に関するコメント(*大正震災志)	備考
豊多摩					9095	16	29	0.18		5+		2	5	44		
	淀橋町				11852	38	35	0.32	N多し(家屋)	5+		51	62	44	非住家全潰8棟、半潰12棟一般家屋の壁は東側被害多し、死者7	
		角筈								5+					煉瓦造り2棟：浅田銀行、尾張屋銀行全潰	
			淀橋浄水場	地表15尺0-Δ下に粘土層、一部盛り土箇所有り					N80E(煙突)						盛り土の一部で4寸-1尺低下、築堤に多数の亀裂、汽罐室内被害、煉瓦煙突(121.6尺)2基上部崩潰	
		柏木								5+						
中野町					4428	47	71	1.06		6-		38	58			
	中野町				6650	14		0.21		5+		11			(全潰・半潰は住・非の区別不明)	
千駄ヶ谷町					7979	13	23	0.16		5+		3	7			
	千駄ヶ谷町				8674		58	0.41		5+			192			
		千駄ヶ谷									6-					
		代々木駅		0-Δの築堤上に0-Δを盛り土											歩廊：盛土1.5寸-5寸低下	
		千駄ヶ谷駅西南西817-826番地		埋立地					N多し(家屋)						町内で被害甚だし、木造二階築15年内外倒潰多し	
		原宿								5+						
		穂田								5+						
澁谷町					17453	10	20	0.06		5-		16	30			
	澁谷町				23732		33	0.07		5-			142			
		中澁谷北部									5+					
		大向		代々木台と駒場台間埋立地					N10E多し(家屋)						町内で被害多し、木造二階築5-10年倒潰多し	
		その他								5-						
大久保					6071	0	1	0.00		5-		2	5			
	大久保町			大部分洪積台地	6436		13	0.11		5+			13		被害少	
		大久保百人町									5-					
		新大久保駅		0-Δの築堤上に0-Δを盛り土											歩廊：盛土7.5寸低下、東西1寸	
		西大久保									5+					
		鴻巣銀行支店							倒潰方向N30W						煉瓦・木造造りで煉瓦部全潰	
		菊地邸(74番)							崩倒潰方向N15E						煉瓦塙(20間)倒潰	
		東大久保									5-					
戸塚町					3890	20	32	0.51		5+		86	122			
	戸塚町				5148		17	0.19		5+			34			
		戸塚									5-					
		高田馬場駅		0-Δの築堤上に0-Δを盛り土											歩廊：盛土1尺低下	
		下戸塚		江戸川沿岸沖積地					N10W,S10E(家屋)		6-				被害著しい、木造二階築4-15年倒潰	
		源兵衛・諏訪									5-					
落合村					1451	3	6	0.21		5+		1	2			
	落合村			洪積台地上	2245		2	0.04		5-			8		被害極めて少	
代々幡町					4185	158	213	3.78		6-		299	380			
	代々幡町				9061	95	231	1.05		6-		45	151		死者7名	全戸数が誤っている可能性あり
		幡ヶ谷									5+					
		玉川上水(笹塚付近)		厚さ3尺の沖積粘土上にアーチ(その下は0-Δ)											煉瓦造りアーチ破潰水路崩潰	
		代々木南部				47					6-				郡中で被害最も甚し、木造二階築4年倒潰多し	
		富ヶ谷		代々木台と駒場台間埋立地											郡中で被害最も甚し、木造二階築4年倒潰多し	
		深町		代々木台と駒場台間埋立地											郡中で被害最も甚し、木造二階築4年倒潰多し	
		代々木(その他)									5+					
野方村					1105	21	30	1.90		6-		1	2			
	野方村				1482	17		1.15		6-		5			(全潰・半潰は住・非の区別不明)	

付録(6/11)

郡	町村	集落(大字)	地点名	被災地の地盤条件および液状化	全戸数	全潰数(棟数)	全潰戸数(倒潰)	全潰率(%)	転倒方向	震度(町村別)	震度(大字別)	半潰数(棟数)	半潰戸数	焼失数	被害や家屋の状況に関するコメント(*大正震災志)	備考
和田堀内村					633	4	6	0.63		5+		1	1			
	和田堀内村				650	10		1.54		6-		20			橋3カ所破損	
		和田堀之内				4					5+					
		和泉				3					5+					
			荻久保(玉川上水)	0-4m台地上で地盤の弱点認められず											築堤北壁38尺崩潰	
			和田堀水衛所	境(武蔵野村)水衛所まで											開渠沿岸に僅かに亀裂のみ護岸被害無	
		その他				0					5-					
杉並町					980	45	60	4.59		6-		8	12			
	杉並町				1800	10		0.56		5+		39			(全潰・半潰は住・非の区別不明)	全戸数が誤っている可能性
	井荻村				719	43	55	5.98		6-		2	4			
	井荻村				850	2		0.24		5+		17			(全潰・半潰は住・非の区別不明)	
高井戸村					678	4	7	0.59		5+		4	6			
	高井戸村				680	6		0.88		5+		22				
北豊島板橋町					3794	16	26	0.42		5+		23	37	1		
北豊島郡	板橋町			石神井川沿岸沖積地盛土に被害多	5536		26	0.27	N20E(家屋)	5+			37		木造二階築20年内外全潰	
			日本フライウツ	埋立地または沖積地					S40W(煙突)						鉄筋70kg煙突(高さ75尺)下より40尺で挫折	
			火薬製造所	沖積盛り土上											煉瓦造り煙突上部崩潰3本	
南千住町					12165	1957	1620	16.09		6+		4012	3110	3638		
	南千住町			水田または池沼埋立、隅田川沿岸低湿地に盛土多い(塵芥、石炭殻捨て場多)		357	1005					423	1078	3934	住家被害は主に、瓦滑落、壁土潰落、家具の転倒が主。死者49 *工場多く、激震で建物の倒潰・人畜の死傷、共に多数に上る	
			千住製絨所	隅田川南岸沿い											組積煉瓦木材折衷、被害の記述無し	
			千住瓦斯製造所	浅草区との境											組積煉瓦木材折衷、被害の記述無し	
			隅田染色工場、羽田調帯会社工場(場所不明)	南千住町内かどうか不明。もと塵芥、石炭殻捨て場(埋立)、東方に隅田川の堤防を控え、他三方は湿潤なる沼地とある					N10E、N20E(工場倒潰)						組積煉瓦木材折衷、地上5-10尺で周壁折れ上部転倒潰落	
			素盞雄大神末社						S8W(社殿)						10度傾斜	
			真正寺						S50E(本堂)						本堂倒潰(壮大なるも寺零200年以上)	
岩淵町					2821	234	293	8.29		6-		502	587			
	岩淵町			荒川沿いの沖積低地と洪積台地より成る。	4044	293		7.25		6-		587				
		(東部)		沖積地(約100尺の沖積、その下第3紀?)							6-				被害甚だし、煉瓦造り大部分倒潰。木造家屋稍大なる物全潰。赤羽工場では、煉瓦煙突4倒潰	"被害甚しい"とは言え赤羽の全潰率は4.2%で震度6-
		赤羽			3835	162		4.22				376				
			製麻会社赤羽工場	水田上に盛り土					N多し(建物)						鉄筋コ造を除き煉瓦造(築4-8年)約10棟倒潰。鉄筋コ+70kg煙突(高さ120尺)下より90尺、40尺で挫折	
			山崎染色工場	沼地の埋立地に盛り土					NW(建物)						木造平屋(築14年)倒潰	
			正光寺						NW(像)						四ツ木観音像(18尺)頭部転落	
			北東荒川堤防												亀裂約十條最大10間	

付録 (7/11)

郡	町村	集落(大字)	地点名	被災地の地盤条件および液状化	全戸数	全潰数(棟数)	全潰戸数(倒潰)	全潰率(%)	転倒方向	震度(町村別)	震度(大字別)	半潰数(棟数)	半潰戸数	焼失数	被害や家屋の状況に関するコメント(*大正震災志)	備考
		(西部)		洪積台地(50-100尺洪積、その下第3紀)							5+				被害少なし(陸軍被服廠等軍の施設が大半)	"被害少なし"による。
			赤羽工兵大塚												煉瓦造建物にも被害ほとんど無し、	
栗鴨町					6453	3	6	0.05		5-		0				
				洪積台地上	7965		6	0.04		5-					被害少	
		栗鴨監獄													煉瓦造り崩倒潰(合計約200間)	
王子町					9145	1032	1254	11.28		6+		920	1129	36		
	王子町			沖積地盛り土箇所多数	9668		1254	10.57	N又はE(家屋) S55E(煙突)	6+			1129		煉瓦造り建物は殆ど全部倒潰または大破(下記の他、加工製紙会社、フェルト会社など)、煙突は下記の他、カ-化学鉄筋1煙突(75尺)下より30尺で挫折 *大字王子字榎町・大字豊島・堀之内・船方に於いて多大の震災を受けた	王子に大字滝野川は無いが、報告書に大字滝野川とあり、その全潰戸数1は近接の十条に入れる
		王子		荒川沿岸沖積地盛り土	4162		162	2.81		6-			199			
		東京毛織(製絨会社)		沖積地盛り土											煉瓦造建物倒潰、煉瓦造煙突1崩潰	
		印刷局抄紙部		沖積地盛り土											煉瓦造建物倒潰	
		製紙会社		沖積地盛り土											煉瓦造建物倒潰	
		堀ノ内		荒川沿岸沖積地盛り土(沖積12間) 特に荻川近	683		286	38.38		7			262			
		火薬製造所		沖積地盛り土											煉瓦造建物倒潰、煉瓦造煙突2崩潰	
		舟方		荒川沿岸沖積地盛り土、特に荒川	119		27	19.56		6+			81			
		東洋紡績会社		沖積地盛り土											煉瓦造建物倒潰	
		豊島		荒川沿岸沖積地盛り土、特に荒川	2483		746	26.64		6+			533			
		豊島小		沖積地盛り土											木造稍大なる校舎倒潰	
		上十條		洪積台地	584		4	0.42		5+			8			
		下十條		洪積台地	1637		29	1.18		6-			46			
滝野川町					9324	87	133	0.93		5+		66	104	2		
	滝野川町			洪積台地上、一部沖積	13037		103	0.49		5+			54		台地上では一般に被害少ない	
		上中里														
		立堀及び駒込田		沖積地、水田上に厚さ二尺内外の粘土を盛り土			72		NW(家屋)	6-					被害多し、木造平屋瓦葺き築3年内外多く倒潰	
		滝野川		洪積台地			4			5+					洪積台地の内では比較的被害多し	
		西ノ原		洪積台地			27			5+					洪積台地の内では比較的被害多し	
		中里					0			5-						
		田端					0			5-						
日暮里町					10310	434	482	4.21		6-		654	699	1737		
	日暮里町			台地周辺沖積地(15.20尺で砂層)			500		S20-50E(家屋)				倒	1700	*工場多く、激震で建物の倒潰・人畜の死傷、共に多数に上る	
		金杉								6+					倒潰家屋多し、一部焼失	
		金杉(小学校近)		水田池沼埋立、低湿盛土多い						5+						
		谷中本・日暮里														
中新井村					329	0	0	0.00		5-		1	1			
	中新井村				387	0	0	0.00		5-		1			(全潰・半潰は住・非の区別不明)	
志村					1089	10	15	0.92		5+		12	18			
	志村			荒川沿いの沖積低地と洪積台地より成る	1250	15	1	1.20		6-		23			非住家全潰9、半潰1、被害は沖積地に集中し、洪積台地上では壁の剥落、瓦の落下も少ない	
		蓮根		沖積地		15			N(家屋)	6-					木造瓦葺築10年他は草葺築40年以上が全潰	
		蓮草寺							N(本堂)						本堂(木造草葺き築216年)半潰	
		その他								5+						
石神井村					965	1	2	0.10		5+		0				
	石神井村					0						0			住家倒潰なし、納屋倉庫被害のみ	
三河島町					5456	2169	1729	39.75		7		1446	1196	1456		

付録 (8/11)

郡	町村	集落(大字)	地点名	被災地の地盤条件および液状化	全戸数	全潰数(棟数)	全潰戸数(倒潰)	全潰率(%)	転倒方向	震度(町村別)	震度(大字別)	半潰数(棟数)	半潰戸数	焼失数	被害や家屋の状況に関するコメント(*大正震災志)	備考
	三河島町			水田地沼埋立、低湿盛土多い			4500						倒	2500	死者70 *工場多く、激震で建物の倒潰・人畜の死傷、共に多数に上る	
		三河島							S20-50E(家屋)	7					倒潰家屋多数	
		三ノ輪								7					倒潰家屋多数、貧民屋で構造入念成らず、一部焼失	面積が狭く、地図では三河島に入れる
		町屋								7						
尾久町					1406	305	350	21.69		6+		756	800			
	尾久町			荒川沿岸沖積地盛り土、百尺以上沖積に粘土石炭殻で盛土	4122		350	6.64		6-			800		煉瓦造工場は殆ど全部倒潰大破、木造の稍大も倒潰 *倒潰家屋多く惨状を呈した	全戸数が誤っている可能性あり
			旭電気会社												煉瓦造全部倒潰大破	
			欄木会社												煉瓦造全部倒潰大破	
			東洋紡績会社												木造の稍大百戸倒潰	
	下尾久									7						本町通被害よ
		本町通		盛り土後3年					SN(家屋)						被害甚だし、築2年で倒潰多	
	上尾久・舟方									6+						
西巣鴨町					10925	6	12	0.05		5-		5	10			
	西巣鴨町			洪積台地上	16786		12	0.03		5-			10		被害少し	
上板橋村					562	2	4	0.36		5+			0			
	上板橋村				624	4		0.64		5+					(全潰・半潰は住・非の区別不明)	
下練馬村					917	1	1	0.11		5+		1	1			
	下練馬村				1024	1		0.10		5+		1			(全潰・半潰は住・非の区別不明)	
長崎村					635	7	10	1.10		6-		2	4			
	長崎村				934		10	0.68		5+			4		被害少し	
大泉村					602	0		0.00		5-			0			
	大泉村					0		0.00		5-			0		住家倒潰なし、納屋倉庫被害のみ	
高田町					5852	31	50	0.53		5+		4	8	1		
	高田町				8188		50	0.37		5+			8		木造2階建全潰多い 防火用煉瓦崩倒潰で木造二階全潰	
	千登世九番地			洪積台地上												
上練馬村					702	1	2	0.14		5+		6	9			
	上練馬村				710	2		0.28		5+		9			(全潰・半潰は住・非の区別不明)	
赤塚村					878	2	4	0.23		5+		1	2			
	赤塚村				840	4		0.48		5+					(全潰・半潰は住・非の区別不明)	
南足立郡 千住町					7109	823	1001	11.58		6+		880	1064	1		
南足立郡	千住町			隅田川、荒川放水路の中州の沖積地(粘土砂で地表下20-25尺に砂礫)	9363		1001	8.55	家屋倒潰方向E-W	6-			1064	1	瓦葺、ト7葺、瓦葺多く倒潰。(全潰807、半潰969という記述もあり)、倒潰家屋は散在、死者28 *震災はやや甚大	
			勝専寺(北千住駅西)						SE-NW(墓石)						墓石転倒	
			五丁目	水田地沼埋立、低湿盛土多い					N35E(家屋)						地裂有り、倒潰家屋多数	
			四丁目飛地	水田地沼埋立、低湿盛土多い					N50W(家屋)						地裂有り、倒潰家屋多数	
			西新井橋東方100m												荒川放水路南岸堤防に100mの亀裂	
			中組地区	(噴砂)											沼沢地の北西部100mに渡り亀裂	
西新井村					986	8	12	0.81		5+		4	6			
	西新井村				960		12	0.81		5+			6		*民家の被害少ない(被害は専ら工場)	

付録 (9/12)

郡	町村	集落(大字)	地点名	被災地の地盤条件および液状化	全戸数	全潰数(棟数)	全潰戸数(倒潰)	全潰率(%)	転倒方向	震度(町村別)	震度(大字別)	半潰数(棟数)	半潰戸数	焼失数	被害や家屋の状況に関するコメント(*大正震災志)	備考
	江北村				863	24	33	2.78		6-		39	52			
	江北村				798		33	3.01		6-			25			
	舎人村				307	3	4	0.98		5+		3	5			
	舎人村				301		4	0.86		5+			1			
	瀬江村				472	11	15	2.33		6-		8	11			
	瀬江村				470		16	2.43		6-			11			
	梅島村				690	28	38	4.06		6-		138	160			
	梅島村				680		38	4.19		6-			160			
	綾瀬村				505	34	44	6.73		6-		16	22			
	綾瀬村				472		16	2.42		6-			10			
	東瀬江村				529	9	13	1.70		6-		14	19			
	東瀬江村				485		16	2.35		6-			16			
	花畑村				725	62	77	8.55		6-		14	20			
	花畑村				681		70	8.19		6-			14			
	伊興村				239	15	19	6.28		6-		9	12			
	伊興村				239		19	6.17		6-			12			
南葛飾郡	新宿町				493	1	2	0.20		5+		5	7			
南葛飾郡	新宿町				530	1		0.19		5+		4			非住家全潰1,半潰3	
			新宿	中川の旧河道(噴砂)											被害あり(他地域はなし)、中川と奥道間で亀裂10m、中川堤防に亀裂0.15m	
			濟金聖寺												墓石大方転倒	
			日枝神社												石燈籠5転倒	
	亀戸町				7886	361	451	4.58		6-		290	370	430		
	亀戸町			沖積平地(盛土、粘土、砂、礫)盛土下の砂層、さらに水を含む砂質粘土層											盛土上に被害、現在の総武線亀戸駅を南北に通る街道沿い *地震其のものの被害は既に莫大に上る	
			六ノ橋付近	(噴砂)												
			柳島							6+						
			日清紡績	(噴砂)												
			天満宮西部	田地又は野地を石炭殻又はおが屑等で盛り土				25.00							被害稍著し、全半潰傾斜40%家屋は平屋、二階木造相半ばし年齢15年内外	倒潰40%とする と全潰25%
			役場通り	同上				4.60							被害稍著し、全半潰戸数12%、家屋は平屋、二階木造相半ばし年齢10年内外	倒潰12%とする と全潰4.6%
			押上・小梅							6-						
			役場-五ノ橋	同上				9.60							被害稍著し、全半潰戸数20%	倒潰20%とする と全潰9.6%
			五ノ橋							6+						
			五ノ橋中通り	同上				34.00							被害稍著し、全半潰戸数50%	倒潰50%とする と全潰34%
			五ノ橋東通り	同上				0.00							被害稍著し、全半潰戸数はなし	
			亀戸							6-						
			五ノ橋-進開橋	同上				3.50							被害稍著し、全半潰戸数10%	倒潰10%とする と全潰3.5%
	大島町				4986	621	540	12.45		6+		971	810	1400		
	大島町			沖積平地(盛土、粘土、砂、礫)盛土下の砂層、さらに水を多く含む砂質粘土層											盛土上に被害 *地震其のものの被害は既に莫大に上る	
			一、二丁目	二丁目				0.30		6-		0.312			被害稍著し、全半潰戸数4%	倒潰4%とする と全潰0.3%となる が、“稍著し”を 考慮
			三、四丁目	三、四丁目				14.00		6+					被害稍著し、全半潰戸数27%	倒潰27%とする と全潰14%
			五-八丁目	中ノ橋通				6.40		6-					被害稍著、全半潰戸数15%	倒潰15%とする と全潰6.4%
	吾儘町				6041	506	615	8.38		6-		745	874	180		
	吾儘町															
			請地	水田または池沼埋立地(塵芥、石炭殻捨て場多)					N50-60W(家屋)	6+					倒潰家屋多数	
			その他							6-						
	小松川町				1724	64	86	3.71		6-		292	343			

付録 (10/11)

郡	町村	集落(大字)	地点名	被災地の地盤条件および液状化	全戸数	全潰数(棟数)	全潰戸数(倒潰)	全潰率(%)	転倒方向	震度(町村別)	震度(大字別)	半潰数(棟数)	半潰戸数	焼失数	被害や家屋の状況に関するコメント(*大正震災志)	備考
松江村					1445	20	29	1.38		6-		13	20			
	松江村				1518	20		1.32		6-		17			全潰中瓦葺16、草葺4戸、荒川放水路外堤防破損、内堤防小亀裂、荒川放水路、境川沿いに被害、東船堀運河の北岸に亀裂、死者1	
		東小松江			488	5		1.02		6-		3			被害大	
		西一之江			257	5		1.95		6-		1				
		西小松江			461	5		1.08		6-		8			被害大	
		東船堀			237	4		1.69		6-		5			被害大	
		西船堀			75	1		1.33		6-		0				
瑞江村					1071	16	24	1.49		6-		23	32			
	瑞江村				1035	8		0.77	S(墓石)	5+		14			江戸川-中川間運河沿岸、境川沿岸、江戸川沿岸前野に被害、墓石転倒50%	
		上今井				0				5+					江戸川旧堤防と新堤防間20内外の亀裂無数(篠崎村篠崎まで)	
		二之江			230	3		1.30		6-		8			被害大	
		下今井			143	1		0.70		5+		1				
		當代島			17	0		0.00		5-		2				
		東一之江			218	4		1.83		6-		3				
		前野	(噴砂)			0		0.00		5+					田地約1m陥没し稲は水中に没す、道路に亀裂	
		その他			427	0		0.00		5-		0				
葛西村					1360	10	16	0.74		5+		3	5			
	葛西村		沖積層		1376	16		1.16		6-		18			全潰中、瓦葺5、葦葺11戸	
		東宇喜田	(噴砂)		596	4		0.67		5+		2				
		長嶋			245	3		1.22		6-		7				
		森川			141	1		0.71		5+		1				
		西宇喜田	土地1尺沈下		324	4		1.23		6-		7			満潮時河水溢れ民家床上浸水、海岸堤防多く破損	
		小学校	(噴砂)												校庭、付近宅地で亀裂	
		小島			70	4		5.71		6-		1			被害大	
鹿本村					471	0		0.00		5-		2	4			
	鹿本村		沖積層		450	5						倒				
		松本				3						倒				
		村役場													西に傾斜	
		小学校													1棟全潰	
		光蔵寺							NS(墓石)						墓石転倒率13%(42/330)	
		本一色				2						倒				
寺島町					4577	350	442	7.65		6-		337	427			
	寺島町															
		白髭橋近													倒潰家屋多数	
		白髭神社							S50E(社殿) N55E(燈籠)						社殿傾斜3度、燈籠1基転倒	
		新田													倒潰家屋多数	
		養魚場近							N50-60W(家屋)						倒潰家屋多数	
本田村					1099	3	5	0.27		5+		21	30			
	本田村				1357	1		0.07		5-					中川、荒川交差点付近等に堤防亀裂多数	
		南部									5+					
		南蔵院							N70W(石塔)						門前の石塔転倒	
		濫江	荒川放水路沿い			1									大破	
		本田小学校														
		篠原														
		日本製紐工場													全潰	
		原														
		山力友禅工場													全潰	
		川端													中川堤防に15m内外の亀裂多数	
		北部								5-						
亀青村					600	4	6	0.67		5+		4	7			
	亀青村		沖積層(地質均)		672	0		0.00		5-		7			非住家全潰6棟のみ	
		寶持院							NS(墓石)						墓石転倒(調査時復旧まだ40転倒)	
		亀有停車場付近	(噴砂)												宅地で亀裂	
		中央ゴム工業(砂原)	(噴砂)												地面亀裂数m	
		中原													中川堤防に50m亀裂	
南綾瀬村					648	40	52	6.17		6-		10	15			
	南綾瀬村		沖積層 地下60-240m帯水れき層		773	52		6.73		6-		30			死者2	
		大正硝子会社							N24W(煙突)						煉瓦煙突(高さ33m)中央部で挫折	

付録 (11/11)

郡	町村	集落(大字)	地点名	被災地の地盤条件および液状化	全戸数	全潰数(棟数)	全潰戸数(倒潰)	全潰率(%)	転倒方向	震度(町村別)	震度(大字別)	半潰数(棟数)	半潰戸数	焼失数	被害や家屋の状況に関するコメント(大正震災志)	備考
		小菅		荒川東岸沿、砂粘土、盛土(噴砂)	250	27		10.80			6+	15			被害甚大	
			小菅刑務所	(噴砂)各所で亀裂噴砂											事務所西広場で亀裂(30m以上)、木造平家工場15、倉庫1全潰、煉瓦2階監房5棟、病舎、教誨室、煉瓦工場大破、煉瓦外壁倒潰(死者3)	
			蓮昌寺						WorN(墓石)						墓石転倒半数(総数800)	
		上千葉		荒川 - 江戸川中	110	2		1.82			6-	10			被害軽微	
		下千葉		荒川 - 江戸川中	80	2		2.50			6-	2			被害軽微	
		堀切			100	3		3.00			6-	2				
		小谷野			23	2		8.70			6-	0				
		柳原		荒川西岸沿、砂粘土、盛土(噴砂)	210	16		7.62			6+	1			被害甚大、安政地震でも被害多い 地面の低下した所あり、東武鉄道提堰破潰陥没	"被害甚大"を考慮し、震度6+とする
篠崎村					501	0		0.00		5-		1	1			
	篠崎村			被害僅少 中州に半潰1戸のみ	540	0		0.00		5-		1				
			伊勢屋												江戸川新堤防亀裂0.6m以上陥没	
			中洲												江戸川新堤防亀裂0.6m以上陥没	
			前野												江戸川新堤防亀裂0.6m以上陥没	
			當代島地先												江戸川新堤防亀裂0.6m以上陥没	
小岩村					804	0		0.00		5-		2	3			
	小岩村					0		0.00		5-		3			江戸川沿いに僅かに半潰家屋	
		東部								5-						
			小岩田												地積約0.3m沈下、僅かに半潰家屋	
			下小岩												僅かに半潰家屋	
			伊豫田												僅かに半潰家屋	
			上小岩												江戸川堤防上に10m亀裂、堤防崩潰	
		西部								5-						
金町村					633	1	1	0.16		5+		0				
	金町村			沖積層100m内外		0		0.00		5-		0				
			金蓮寺	沖積層					E(墓石)						墓石転倒50%、門前燈籠転	
			西區	稲田中に亀裂(噴砂)											江戸川堤防鉄橋南20mの亀裂	
水元村					455	1	2	0.22		5+		3	5			
奥戸村					925	0		0.00		5-		17	24			
	奥戸村				976	0		0.00		5-		20			中川の湾局部に被害多い	半潰多数により震度5+
		中川沿い								5+						
			諏訪野	(噴砂)											半潰10あり、中川堤防上50m亀裂	
			奥戸新田												半潰5あり、小学校横道路に亀裂	
			奥戸	(噴砂)											亀裂のため半潰5あり	
			奥戸橋東詰	(噴砂)											堤防下に亀裂	
		その他									5-					
隅田町					2878	238	298	8.27		6-		783	881			
	隅田町						279						261		隅田河畔鐘紡煉瓦造り工場、煉瓦崩潰、死者14	
			鐘淵紡績会社	隅田川沿いに盛り土											組積煉瓦木材折衷、周壁折れ全潰、煉瓦塀長さ50間崩潰	
			綾瀬橋近						N30-60W(家屋)						倒潰家屋多	
			綾瀬橋												北西橋台付近に亀裂7m	
砂町					2742	894	499	32.60		7		833	468	1360		
	砂町			沖積平地(盛土、粘土、砂、礫)盛り土厚い、仙台堀川以南埋立地											中川堤防等各所に地面亀裂(100-350m) *地震其のもの被害は既に莫大に上る	
			役場付近	(噴砂)											地面亀裂長さ40m	
北多摩郡 千歳村					676	9		1.33		6-		90				
北多摩郡 千歳村					670	9		1.34		6-		90			非住全潰60、半潰191	
			鳥山	洪積台地上で0-4層の腐植部厚い											同村中被害大	
			文化村	洪積台地の盛り土箇所					S10E(水槽)						築2年の木造2階40戸の殆ど半潰大破、17グリト造水槽2転倒	
砧村					588	3		0.50		5+		3				
	砧村			多摩川沿岸以外は洪積台地		3	4					4			全潰4棟は建物古きによる、非住全潰1、半潰39	
			宇奈根喜多見												堤破壊200m 道路破壊90m	